

TANKO - LECS:さらなる低侵襲化への取り組み

※1 斗南病院 外科 ※2 斗南病院 消化器科

才川大介^{※1}、北城秀司^{※1}、奥芝俊一^{※1}、海老原裕磨^{※1}、川原田陽^{※1}、
佐々木 剛志^{※1}、小野田 貴信^{※1}、サシーム パウデル^{※1}、住吉 徹哉^{※2}、
近藤 仁^{※2}

2008 年に比企らより報告された GIST をはじめとした胃粘膜下腫瘍に対する laparoscopy endoscopy cooperative surgery(以下:LECS)は最小限の胃壁切除で腫瘍を摘出することで、より高いレベルでの胃機能温存を可能にした。当院では原法の理念を踏襲しつつ、さらなる低侵襲化を目指し単孔式に LECS を導入し(T - LECS)、良好な成績を得ている。今回これまで施行した T-LECS の症例を通じて、手術手技の feasibility を提示する。また現在では delle を伴う胃粘膜下腫瘍に対し、腫瘍の露出を避けるべくさまざまな工夫が報告されているが、これらの症例に対する T-LECS での取り組みについても合わせて報告する。